

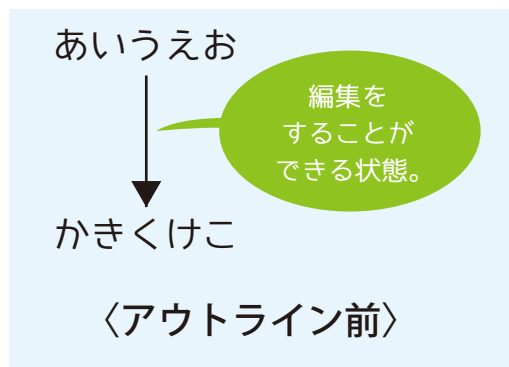
- ・文字はアウトライン化してください。
- ・画像の解像度は 350ppi 以上にしてください。
- ・.ai データのカラーモードは CMYK カラーにしてください。
- ・画像を配置する場合はリンク配置にしてください。
- ・データのサイズが 5MG を超える場合はファイアストレージ（データアップロードサイト）にデータをアップロードしていただき URL を貼り付けていただいでご送信をお願いいたします（データが重たいとメールが届かない場合がございます）。
- ・データのオブジェクトの端に各 3 ミリずつ塗り足しを付けてください。



- ・透明効果を使用した場合は、1 枚の画像にしてご送信をお願いいたします。
- ・データの形式は .ai 形式にしてください。

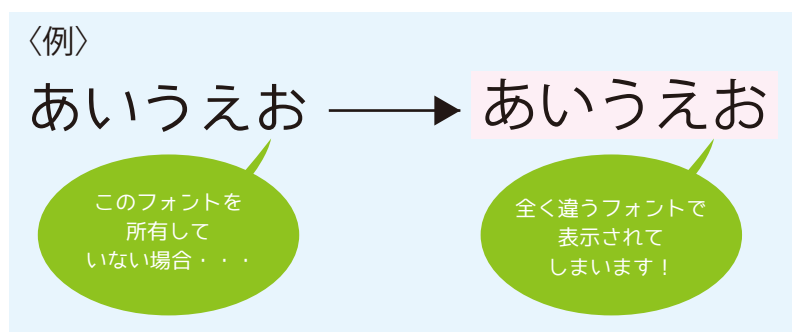
## “文字をアウトライン化する”とは

文字を打ち替えるなどの編集をすることができるフォントが活着している状態から、文字を打ち替えるなどの編集ができないパス（線画）の状態にすること。



### なぜ必要か

送り先のパソコンが同じフォントを所有していない場合、送り先のパソコンでデータを開くと本来のデータと違うフォントで表示されてしまうため。



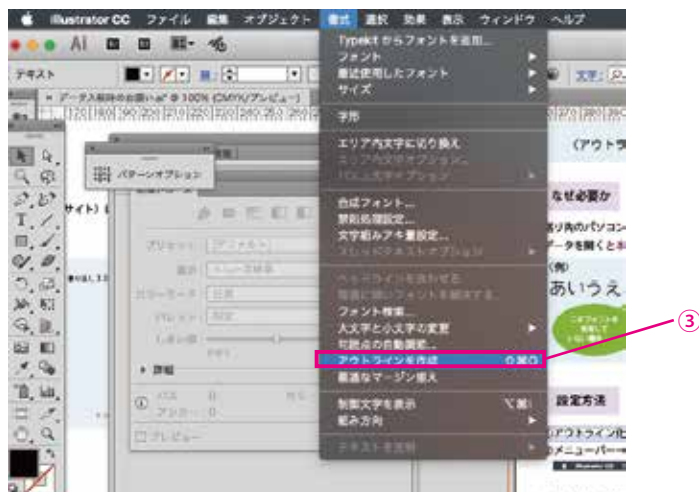
データ間違い防止、  
少ない手数で作業をするためにも  
文字のアウトライン化を  
お願いいたします。

### 設定方法

- ①アウトライン化したいフォントを選択する。
- ②メニューバー→書式（左上にあります）



- ③『アウトラインを作成』 選択



## “画像解像度を350ppi以上にする”とは

『画像解像度』…写真などのイメージの「密度」を数値化したもの。

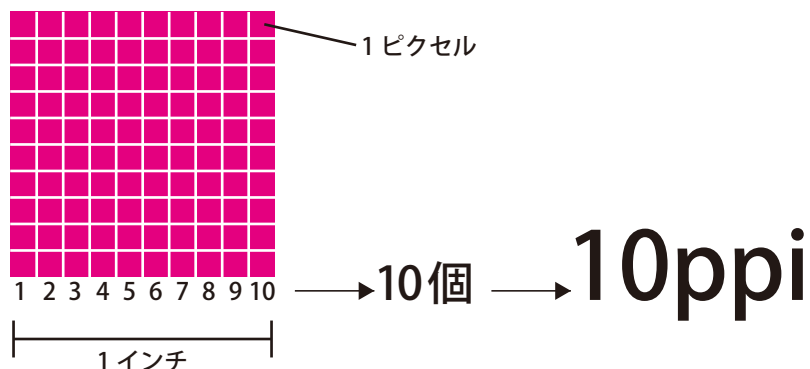
解像度の数値が高ければ高いほど、よりきめ細かい綺麗なイメージ（高解像度）ということになる。

『ppi』…画像解像度をあらわす単位。画面上で解像度を設定するときにつかう。

pixels per inch の略

画像は画面上でみたときピクセル（ちいさい四角）の集合でできているが、**ピクセルが1インチ（25.4ミリ）の1列に何個入っているか**という基準で割り出した数字のこと。

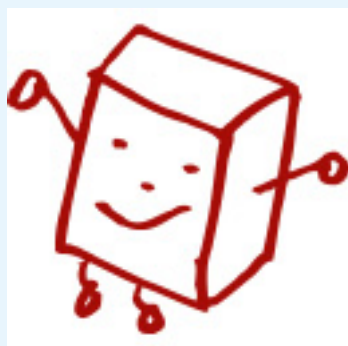
〈例〉



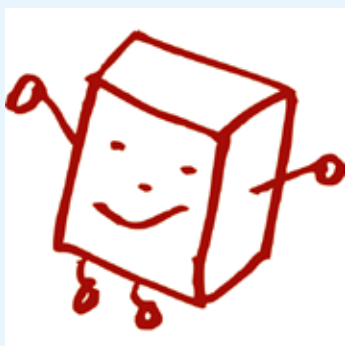
### なぜ必要か

印刷で美しく画像を表現するために解像度が350ppi以上必要なため。

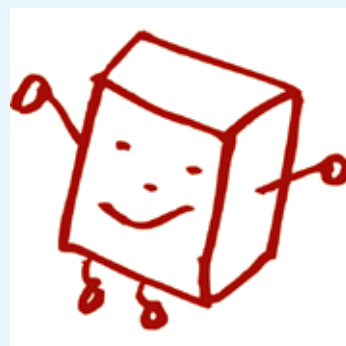
♪ 画像をレイアウトする商品によって必要な解像度が違います。



▲インターネットなど  
画面上で完結する商品 (72ppi)



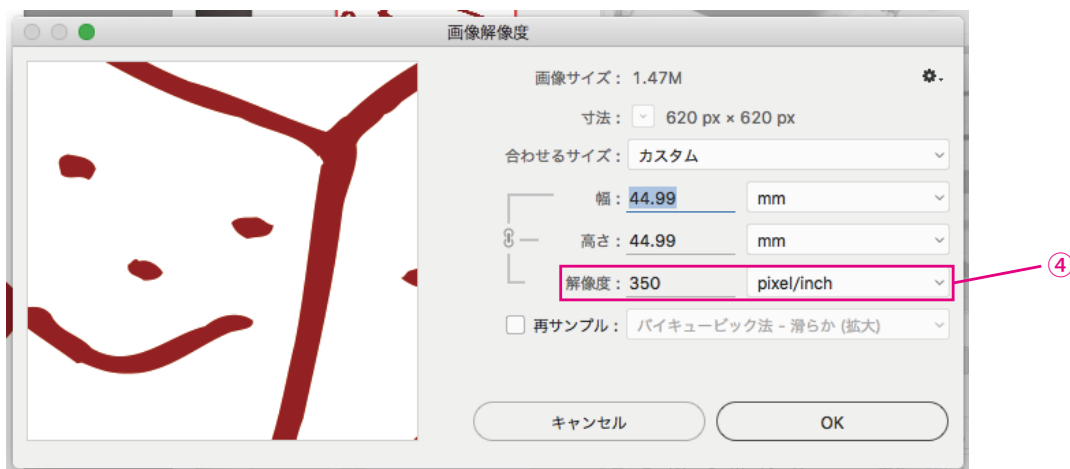
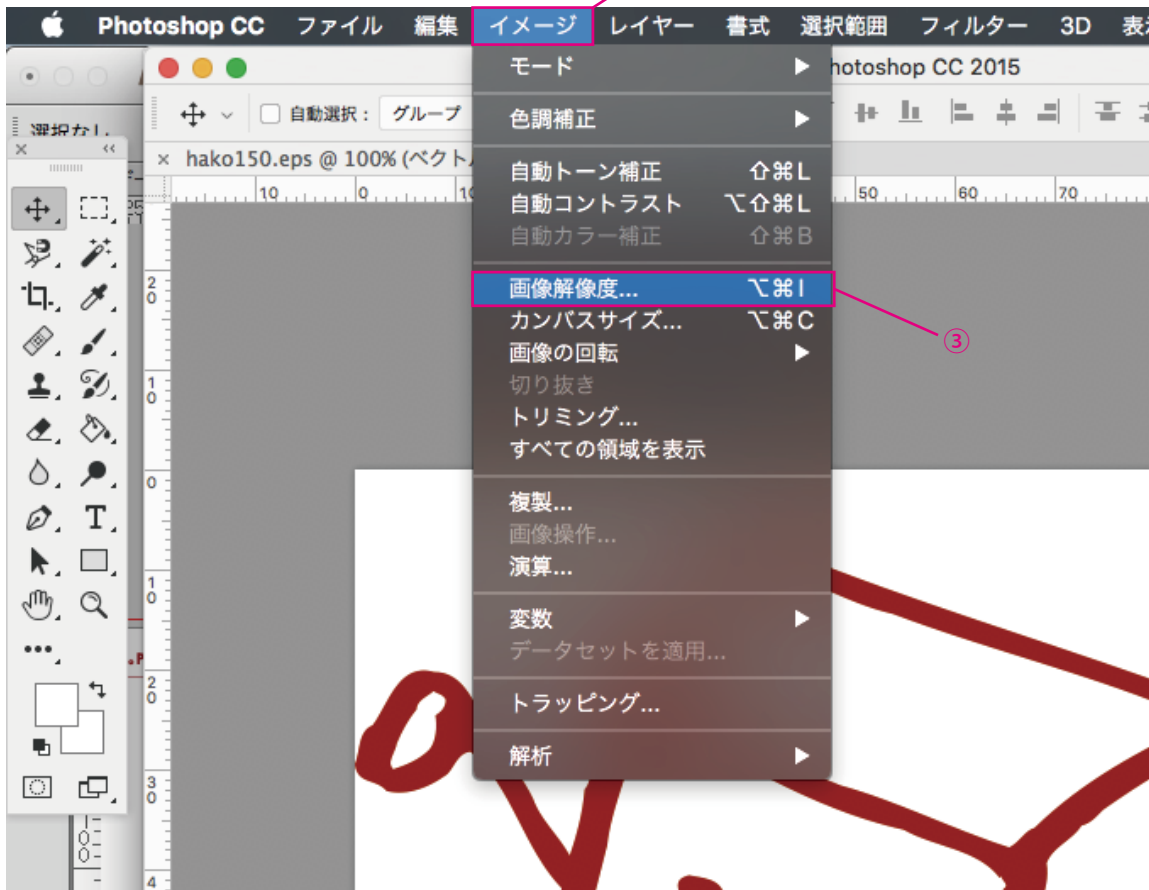
▲ポスターや看板など遠くから  
見ることを目的にした商品 (150ppi)



▲一般的な印刷物 (350ppi)

## 設定方法

- ①配置する画像を Photoshop（デザインをするためのアプリ）で開く。
- ②メニューバー→イメージ（左上にあります）
- ③画像解像度



- ④解像度を 350 にする。

## “.ai データ” とは

\*企画デザイン部が使っている Mac に入っている、『Illustrator（イラストレーター / 通称：イラレ）』というデザインをするためのアプリでのみ開くことが可能なデータのこと。

\*他の .jpg などの画像データだと、見た目は同じでもデータのパーツが全部つながった状態になってしまっているのので1パーツのみ動かすような編集ができない。

.ai データではそれが可能。

## “カラーモードを CMYK にする” とは

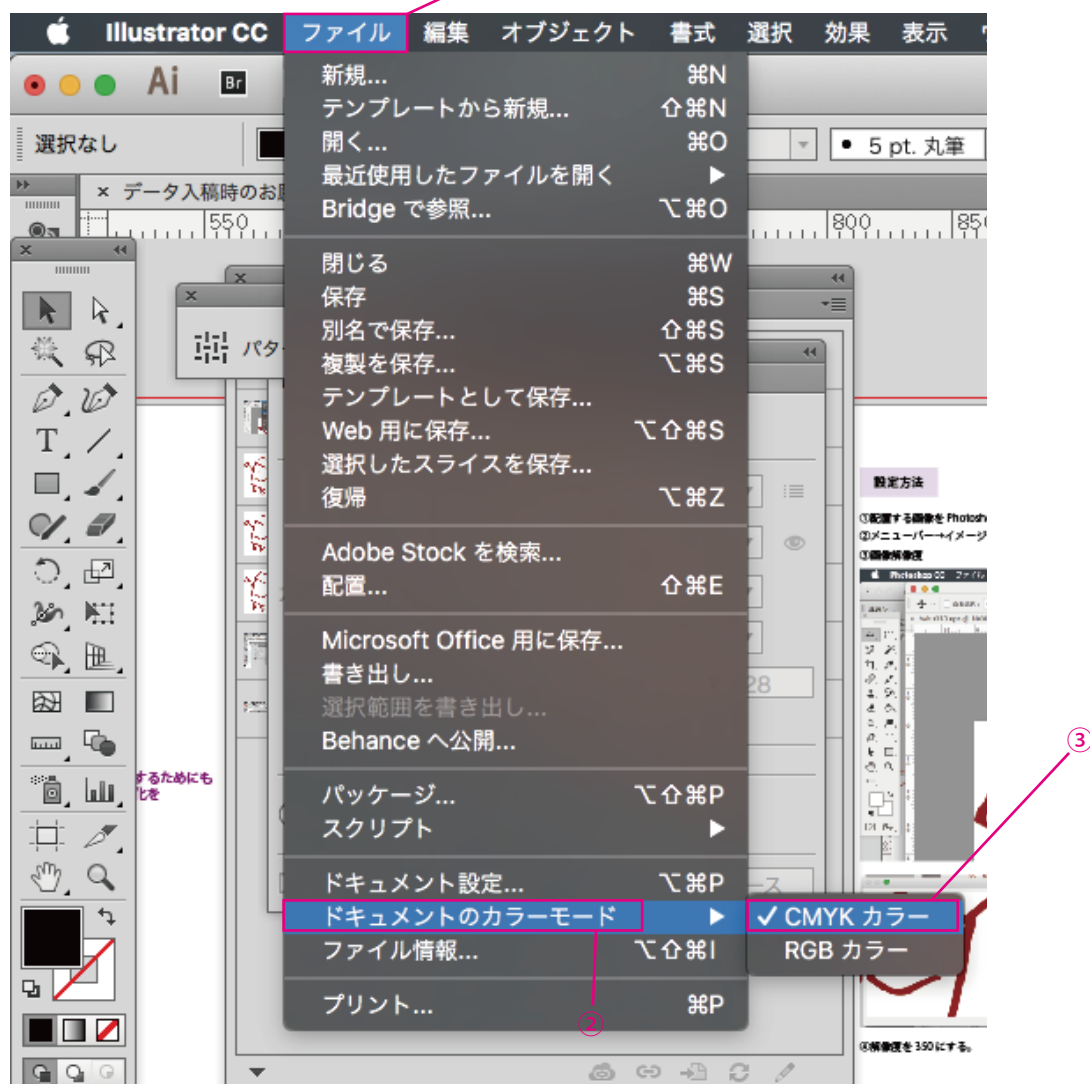
印刷でデータを表現するとき、CMYK（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）の4色が必要なのでデータを印刷に対応したカラーモードにすること。

### 設定方法

①メニューバー→ファイル（左上にあります）

②ドキュメントのカラーモード

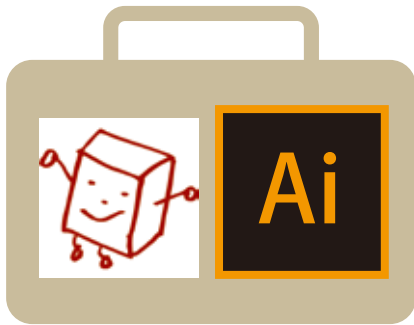
③CMYK カラー



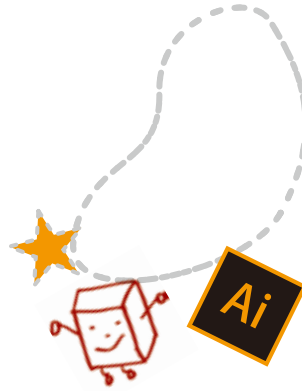
## “画像をリンク配置する” とは

.ai データに画像を配置する際、『埋め込み配置』と『リンク配置』の2つの方法がある。  
『リンク配置』とは Photoshop などの別のアプリケーションで作成したファイルを参照し、Illustrator 内に画像の情報を持たせずに『プレビュー』で表示させる配置方法のこと。

〈簡単に例えていうと…〉



リンク配置は、同じカバンの中に必要な画像と .ai データを入れていて、いつでも取り出せるイメージ。



埋め込み配置は、絶対に外れない鎖で繋がれたキーホルダーのイメージ。自由に取り出したりできない。

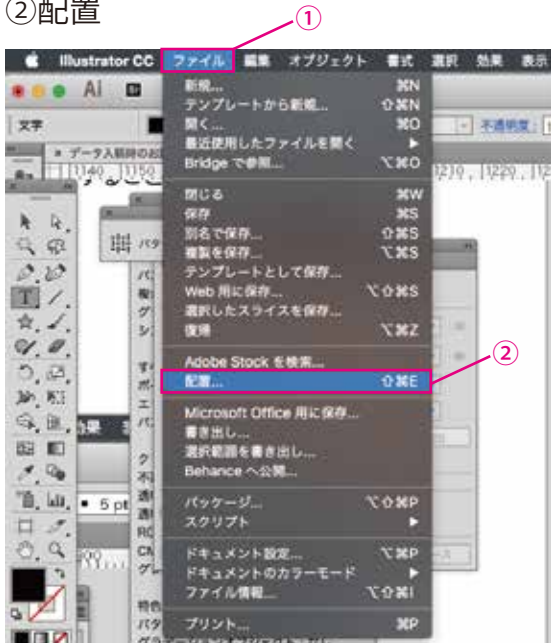
## なぜリンク配置が必要か

- ・ .ai データを軽くするため。
- ・ 配置してある画像をデータの受取手も編集・保存することができるから。

## 設定方法

①メニューバー→ファイル（左上にあります）

②配置



③配置したい画像を選択

④リンク チェック

⑤配置

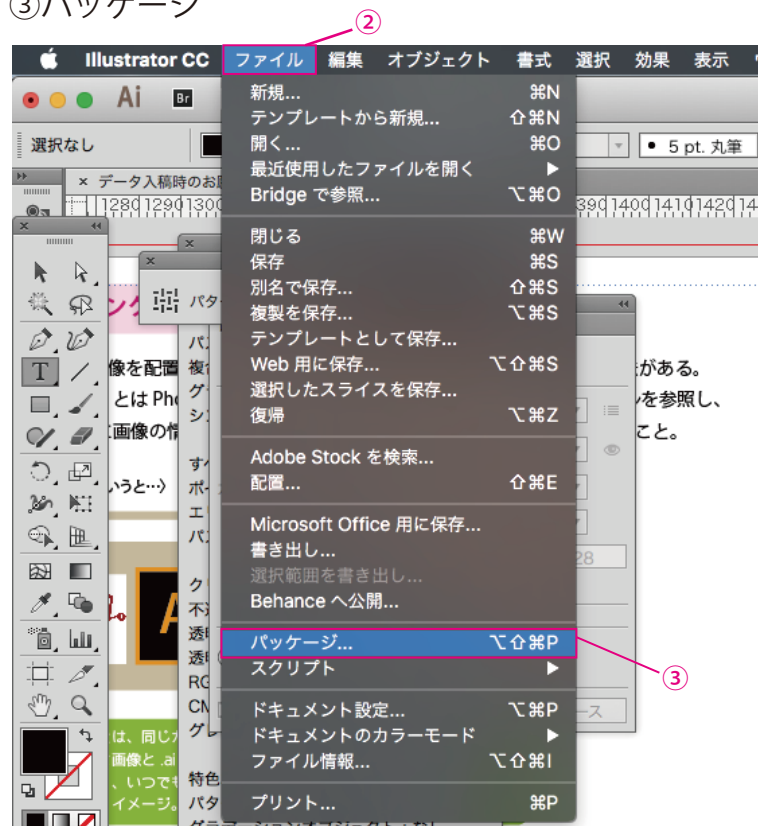


〈データを作成しおわったら〉

①保存

②メニューバー→ファイル（左上にあります）

③パッケージ

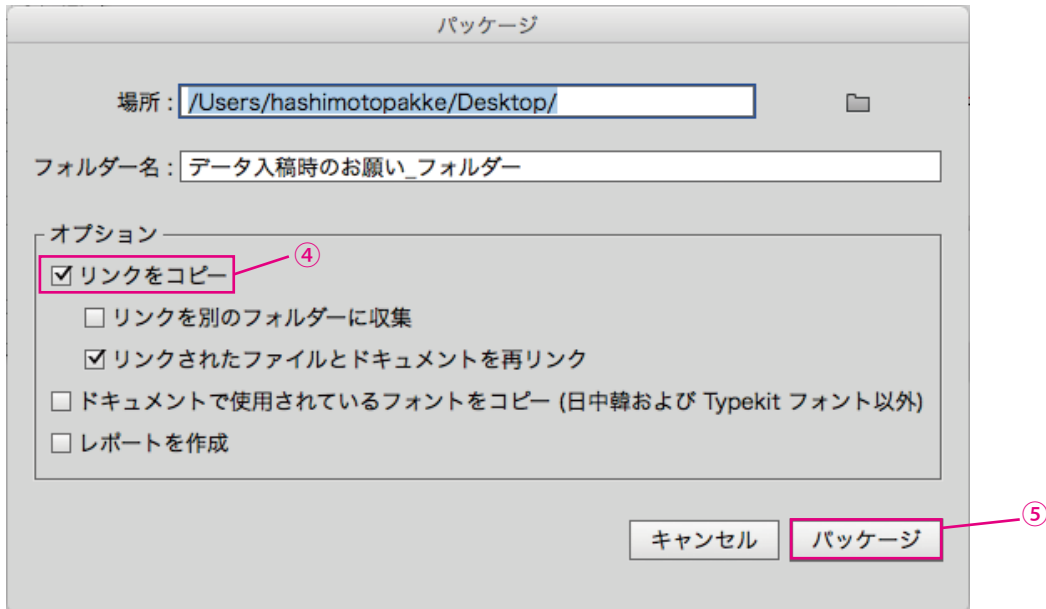




④リンクをコピー チェック

⑤パッケージ

→パッケージすると、配置した画像と .ai データがひとつのフォルダにすべて集結し、  
画像の画像のリンクもつながった状態になりますので、そのフォルダごとお送りください。



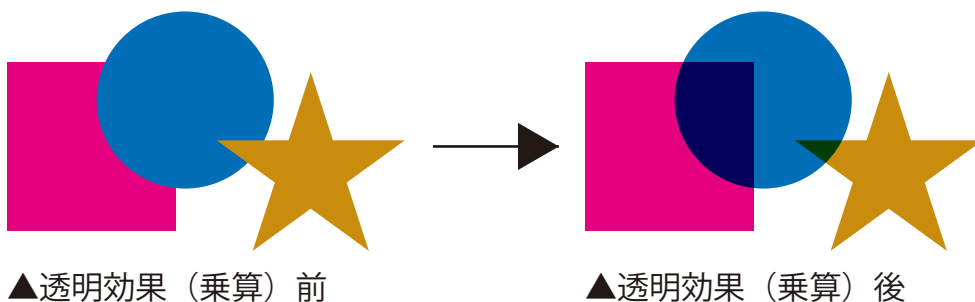
## “塗り足し”とは

印刷物を断裁する際、木型（断裁をするための“刃”）が本来断裁したい位置からズレてしまって、印刷をしていない部分が出来上がった商品に不自然に残ってしまわないようにあらかじめ断裁をする範囲よりも広く印刷をのせること。通常の印刷をする商品に関しては天地左右 3 ミリずつ必要。

## “透明効果”とは

Illustrator の、透明パネルを使ってオブジェクトに透明加工を施す効果のこと。

これを入稿時や出稿時にそのままにしていると、製作時と違うパソコンでデータを開いたときに透明効果かけた部分が画像化してしまっていてデータが正しく表示されない場合がある。  
また、データがとても重くなる。





## 対処方法

### 〈その1〉データ全体を1枚の画像にする

- ①イラストレーターのオブジェクトのサイズにアートボードのサイズを縮めて .eps 保存する。
- ②①を Photoshop で開き、Photoshop EPS 形式で .eps 保存する。
- ③もとの .ai データを開き、②をリンク配置でもとの位置に配置する。
- ④③を オブジェクト→隠す→選択 で隠す。
- ⑤画像にしたオブジェクトを消す。
- ⑥④を オブジェクト→すべてを表示 で表示する。

### 〈その2〉透明部分を分割・統合する

- ①透明効果を使用したオブジェクトを選択
- ②オブジェクト
- ③透明部分を分割・統合



▲透明効果を使用したオブジェクト



▲透明部分を分割・統合後